

日芸みやぎ

日本大学芸術学部校友会
宮城江古田会 ニュース

新会員 「こどもしょくどう」監督 日向寺太郎さん

この春、高校の先輩からの依頼で、仙台で講演する機会があった。その先輩の紹介で桑折さんとお会いし、宮城江古田会を始め、各地に江古田会があることを知った。私は高校まで仙台で育ったが、残念ながら今は実家はない。仕事絡みでしか仙台に行くことはなくなったが、機会をみて、宮城江古田会に参加してみたいと思う。私が日大芸術学部を卒業したのは1989年だが、出会いはこのようなものだった。

どの大学を志望するか、考えたのは高二から高三にかけてだった。中学時代から一人もしくは友人と一緒に映画を見始めた私は、漠然とではあったが、将来は映画の道に進みたいと思うようになっていた。数多くの映画人を輩出している日芸映画学科の名前は知っていたものの、映画をつくるためには、世界や人間に対して多くのことを学ばなければならないだろうとも思い、映画を専門課程に選ぶことには違和感があった。今のようにオープンキャンパスがあったり、大学の情報が多く溢れている時代ではなかったこともある。そんなことから、東京のある私大を第一志望にした。

幸か不幸か、その大学は不合格になり、上京して浪人生活が始まる。その際に選んだ予備校も英語難関大学に特化した予備校だった。一方で、仙台では見る事ができなかったたくさんの映画が上映されている東京は、映画をもっと見たい、知りたいという思いをますます強くさせた。5月(だったと思う)のある日、魔が差したというのだろう、せつかく東京にいるのだから、日芸のキャンパスを見に行こうと思った。江古田のこじんまりとしたキャンパスでは、写真学科の学生たちが大きなカメラを三脚に乗せていた。思い切ってその中の一人に声をかけ、映画学科の学生に話を聞きたいと頼んだ。もう

顔も忘れてしまったその方は、すぐに知り合いの映画学科の学生二人を連れて来てくれた。近くの喫茶店で、専攻コースのいろいろを根掘り葉掘り訊いているうちに、映画の道に進むには遠回りしている場合ではないのではないかと思い始め、喫茶店を出る頃には今までの考えを180度変え、映画学科を第一志望にしよう!と決めたのだった。これが私の映画人生の始まりである。

大学を卒業してちょうど30年目の来年3月、新作『こどもしょくどう』は、東京の岩波ホールを皮切りに公開が始まる。
(日向寺太郎)



日向寺太郎監督

日向寺太郎(ひゅうがじ たろう)プロフィール。映画監督。1965年宮城県仙台市生まれ。日大芸術学部映画学科卒業。卒業後、黒木和雄、松川八洲雄、羽仁進監督に師事する。

- ・1998年、『黒木和雄 現代中国アートの旅／前後編』(NHK)を監督。

- ・2005年『誰がために』で劇映画監督デビュー。主演の浅野忠信が第60回毎日映画コンクールにて男優主演賞を受賞するなど高い評価を得た。

- ・2008年『火垂るの墓』では松坂慶子が毎日映画コンクールにて女優助演賞を受賞、松田聖子が日本映画批評家大賞審査員特別賞を受賞。

- ・2009年、俳人金子兜太のドキュメンタリー『生きもの一金子兜太の世界』(紀伊國屋書店よりDVDとして発売)は映文連アワード2010グランプリ、教育映像祭で文部科学大臣賞(最優秀賞)を受賞する。

- ・2013年公開の『爆心 長崎の空』は上海国際映画祭コンペティション部門に選ばれた。

- ・2014年、ドキュメンタリー『魂のリアリズム 画家野田弘志』が公開。

- ・最新作『こどもしょくどう』は来年3月、岩波ホールを皮切りに全国公開。

- ・日大芸術学部映画学科、埼玉県立芸術総合高校で非常勤講師も務める。



2019年春公開『こどもしょくどう』キャスト 前列左から古川凜、鈴木梨央、藤本哉汰、田中千空、浅川蓮。後列左から吉岡秀隆、常盤貴子

「第2回アートフェスティバル・東北」感謝！



木村政司学部長

桑折会長をはじめ、宮城江古田会の皆さまには学部と校友のパートナーシップを深めることに多大なるご理解とご協力を頂き心より感謝申し上げます。

3年後に創設100周年を迎えようとする芸術学部は、来年4月より全学年の江古田通年教育が始まります。江古田が再びにぎやかな街になります。外見や数字が変わるだけでなく、後輩が先輩の後ろ姿を見ながら教育・研究・就職活動が一貫してできるようになります。学部は学生を“化けさせる”教育・研究に力を注ぎます。キャンパスの様相は変わっても、校友の皆さんが築いた日藝マインドは、昔から変わることなく江古田の地に今も息づいています。

今後も宮城江古田会の皆さまと、より一層の絆づくりに努力をし、次世代につなげていきます。そして、現役の学生たちが卒業後も校友会の各支部のメンバーとして活動できるようなスピリットを育てることが大切であると感じています。

(学部長 木村政司)



大川原儀明さん

第1回に続き「第2回アートフェスティバル・東北」の司会を務めた。宮城江古田会の記念事業だが、「青森江古田会の私が司会？」と思いつつ第1回を引き受けたのが10年前。「仙台にも日芸出身のアナウンサーはいるだろう」と思ったが、「現役のアナはスケジュールが取りにくい」「卒業生にも適当な人がいない」との理由で依頼してきたのは、宮城江古田会の同級生、酒井健樹君だった。

今回も宮城江古田会のメンバーはバイタリティーに溢れていた。おりしも日大アメフト問題が発覚してからの開催。私なりに問題意識を持って司会に臨んだ。しかし「日大」ではなく「日芸ブランド」は失墜していなかった。日芸卒業生として誇らしく、充実した2日間を過ごすことができた。

次回のアートフェスティバルが開催されるかどうかはわからない。たとえ開催することになっても私が司会をすることはないだろう。しかし元気なら、私が会場に居ることは間違いない。

(大川原儀明)

第2回アートフェスティバル・東北、開催、無事に成功おめでとうございます。応援してくださいました皆様ありがとうございました。私は第1回も出演させていただいたので、先輩方との懐かしい再会もあり、嬉しさと大変有意義な時間でした。改めて、総合芸術大学の

素晴らしさを認識、関係者以外の方にもPRできたのではと思いました。私は映画学科卒業でありながらイタリアの歌謡曲、カンツォーネを担当しましたが、他の先輩方も、日芸を通じて、学科からはみ出した道へ進んで展開している様子を見て、日芸の枠のない、弾ける要素が数々のカリキュラムが素晴らしいと思いました。私の場合、成り行きで日芸に入りましたが、私の進む道が見つかり、大学には感謝いっぱいです。イタリアのアモーレの風を、日伊友好のかけ橋としても、勇気と元気をこれからも届けていきたいと思いました。私には東北の秋田と岩手の血が4分の1ずつ入っております。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。



加藤順子さん



田中 聡さん

「第2回アートフェスティバル東北」にて「この街にスモウ」という作品を出展しました。震災後、ふるさとの元気を世界中に伝えたくて続いている「取り組み」です。桑折会長が、福島江古田会アート展のこの作品をご覧になり、気に入っていただいたのがきっかけで今回の参加となりました。自身初の県外巡業です。今回の土俵「せんだいメディアテーク」は、さすが東北アートの聖地です。展示の立ち合いから結びまで、多くの目の肥えたお客様にご覧いただきたくさんのお返事をいただきました。なんと取材も受けて河北新報7/17夕刊にデビューまでしちゃいました。まさにクリエイター冥利に尽きる体験です。

でもそれ以上に心にノコッタノコッタのは、東北各県と熊本江古田会の皆さんとの交流ではないでしょうか。親睦を深めた楽しい時間、素晴らしい機会を作ってくれた宮城江古田会の皆さんに改めて感謝申し上げます。

(田中 聡)

10年前のアートフェスティバルをきっかけに宮城江古田会とのご縁ができました。そして今回は音楽科の同級生で気仙沼の山本さんと一緒にステージに立つことができるととても嬉しくありがたく感じました。



星 久美子さん

会員の活躍

3回目となった日芸コンサート開催

高橋咲千子・大学院音楽H21年度卒

今年3月11日に、『第3回 日芸コンサート』を開催しました。今年は、東京から長崎さんの声がけでフルートカルテット/トレーフル(千勝 あずさ、橋口 瑛香、小泉 香奈)、北海道から町田 徹平(クラリネット)さんが初参加で加わり、星 久美子(ソプラノ)さん、長崎 宏美(フルート)さん、花澤 幸恵(トランペット)さん、高橋 咲千子(ピアノ)の8名の日芸出身者が出演しました。

“3.11”の慰霊と復興をテーマに、「震災の年に生まれた赤ちゃんがこんなに大きくなりました」、「復興は道半ば」と云う写真を演奏にのせてスライドショーを行いました。ご来場頂いた約300名の方々の中には、涙を流し感動して聴かれた方も多かったと思います。

2016年に、仙台で長年活躍されている星 久美子さんの声がけで始まった『日芸コンサート』も、少しずつ広がりをみせてきたと実感しております。他の音楽大学にはできない「特徴をもったコンサート」とし

て、ホールでの演奏だけでなく、華道家/山田草女さんの生け花展示、日大の諸先輩方による「初めての生け花パフォーマンス」、「写真展示」、アーティスト/RYOKOの作品展示等を行ってきました。今後も、色々なアイデアを出し合いながら、開催して行きたいと考えています。次回の日芸コンサートは、来年、3月23日(土)に、宮城野区文化センター・パトナホールにて開催します。是非、皆様のご来場を心よりお待ちしております。多才な日芸出身者の多くのご参加をお待ちしています。

※連絡先: marikota_1001@yahoo.co.jp (高橋咲千子)



第3回日芸コンサート

眼科医で日芸音楽学科講師の山口慶子さん 当会名誉会員に…

医師・医学博士・ピアニストという肩書の山口慶子さん。日本大学医学部を卒業後、現在は宮城県立こども病院の眼科医師でいらっしゃると同時に、日芸音楽学科で音楽療法特殊研究講師を務め、さらにピアニストとして様々なコンサートにご出演。最近ではライオンズクラブのチャリティコンサートや日芸の音楽学科教員による演奏会、仙台市医師会主催の芸術祭などで演奏しました。また、青葉区中央二丁目、大橋眼科の旧自宅部分を改築したアーバンブリッジビルのオーナーで、1階にあるピアノサロン「REFRAIN(ルフラン)」は全席バリアフリー設計。音楽や催しを誰

でも楽しめる空間となっています。様々なご活躍されている山口さん、ぜひ宮城江古田会名誉会員宜しくお願いたします。(佐藤 円)



山口慶子さん



「さとうのつめあわせ」近日出版!

佐藤 円・放送H4年度卒

いつもお世話になっております。佐藤 円です。只今、来年出版予定の本「さとうのつめあわせ」のために準備を進めているところです。このシリーズは私さとうの10年間の作品をまとめるもので、過去に20代の総まとめ、30代の総まとめの「さとうのつめあわせ」を出版しています。今回はいよいよ40代の総まとめになります。今年の冬至ごろに入稿し、来年の夏至ごろの出版を目指しており、出版記念展や朗読ライブもできないかとあれこれ夢想中。皆さまどうぞよろしくお願い致します。



日芸祭2018賑わう

来年から全学年 江古田キャンパス

11月3日(土)絶好の行楽日和。桑折会長の華麗なるハンドルさばきに揺られながら、塚崎前会長、酒井事務局長と私佐藤という奇妙な?4人組で「日芸祭」へ向かいました。江古田キャンパスはたいそうな賑わいで、まず目に留まったのは正面入り口すぐのギャラリー棟の放送学科有志によるテレビとラジオの公開生放送。その横では所沢キャンパスまで走っていた学バスが展示。来年からは所沢キャンパスとはお別れということで、所沢1期生としてバスにメッセージを書き込みました。そして、一行は西棟3階にある「校友会お休み処」へ。田上校友会会長にご挨拶すると、ちょうど先日の「第2回アートフェスティバル・東北」のダイジェスト映像が流れていました。そして、野田前学部長にご挨拶。あとは自由に校内を散策しながら見物。写真学科の展示



来年から全学年江古田キャンパス修学

物は念入りに拝見し、塚崎前会長と展示方法についてあれこれ考察など。会場を後にして私が在学中よく通った喫茶店「トレボン」に行き、そこでサークルの先輩に偶然出会ったり、酒井事務局長思い出の江古田駅北口を散策したり。学年も学科も違う元日芸生4人組は、新しい江古田で生涯日芸生なのだと実感しました。(佐藤 円)



ラジオ公開生放送



田上会長と校友会室にて

岩手江古田会

10月27日

10月27日第14回岩手江古田会総会に行ってきた。盛岡メトロポリタンホテルで行われた総会では今年役員改正の時期でしたが

会長候補者が海外出張の為欠席採決は出来ないと1年延期となりました。ホテル自慢のフランス料理コースの懇親会は鈴木幹事(高校校長)の司会で和やかに進む中、アートフェスティバル・東北ご協力の御礼を申し上げます



山崎文子さん

た。会場で作品を提供して下さった山崎文子さんにお会いし、直接御礼を伝える事が出来ました。岩手江古田会は来年15周年を迎えるに当たり、東京での移動総会を提案しておりました。(桑折洋一)

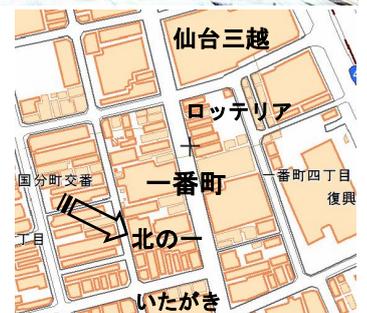


岩手江古田会総会

宮城江古田会 新年会 平成31年1月19日(土)

宮城江古田会新年会、今回は一番町「北の一」です。日時 平成31年1月19日(土) 17:30集合 17:40開始
会場 「北の味覚処 北の一」 Tel.022-267-2228
仙台市青葉区一番町4-4-1 川政ビルB1F

会費 4,000円
最寄り駅仙台市地下鉄南北線
勾当台公園駅徒歩6分



[編集後記] 「アートフェスティバル・東北」全国への広がりを感じる1年でした。日向寺太郎さんは仙台二高出身、映画「こどもしよくどう」と日向寺さんのご支援宜しくお願いします(K)。江古田キャンパス間もなく竣工のA棟、以前と変わらず笑顔あふれる暖かな江古田の街、みなさんも訪ねてみてはいかが(S)。「ありがとう所沢キャンパス・平成時代の日芸生大集合」12/22(土).1300-1700(芸術学部 <http://www.art.nihon-u.ac.jp> 参照)集まってみま

せんか(M)。1968年卒、当時の名残は旧校舎の写真だけ、その後50年の人生の思い出は走馬灯のように駆け巡っています(T)

発行責任者 桑折洋一

事務局 〒980-0802 仙台市青葉区二日町12-21
(有)アズシステム Tel:022-267-0894 Fax: 022-267-3798
Mail: koori@az-sys.co.jp